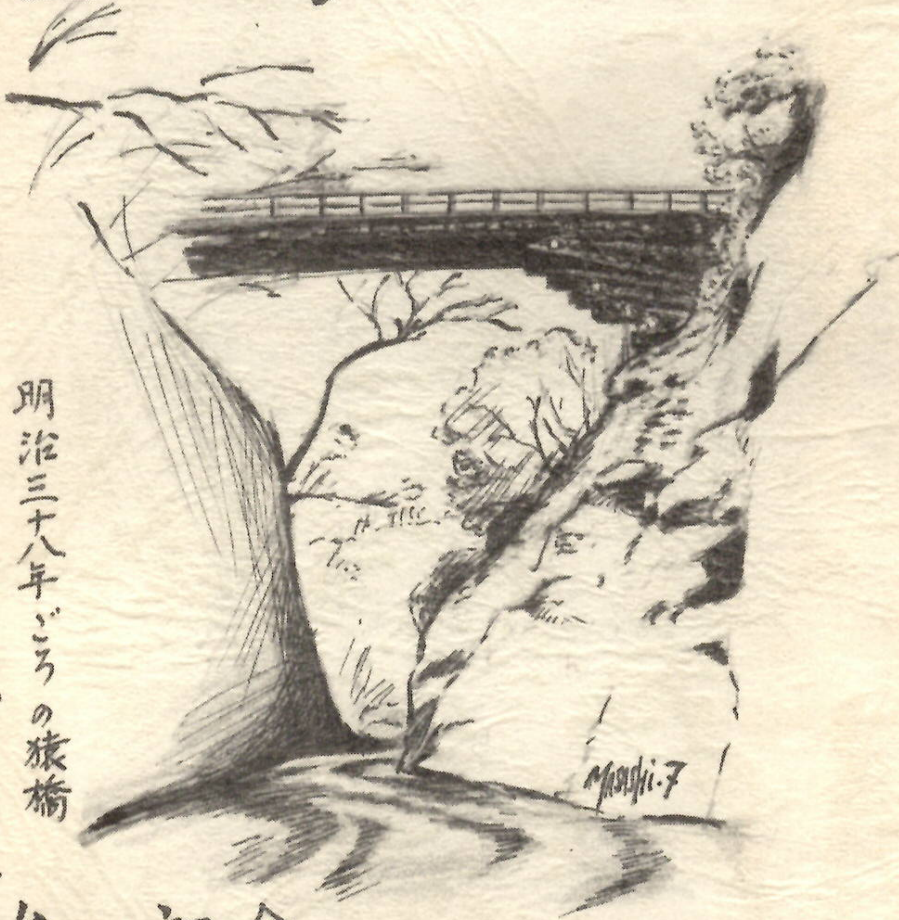


日本三奇橋

祝 猿 橋



明治三十八年ごろの猿橋
(金澤商店秘蔵写真より)

竣工記念

昭和59年 8月 11, 12日

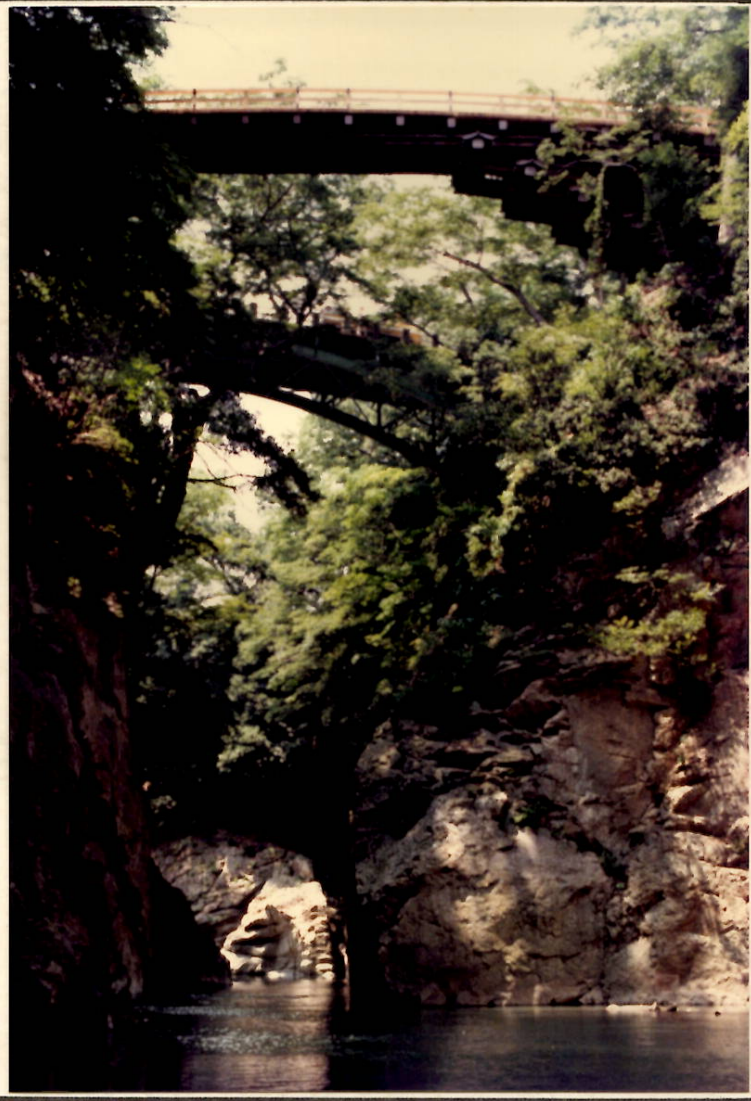
猿橋 あ・れ・こ・れ

猿橋は、岩国の錦帯橋(山口)、木曾の棧橋(長野)とともに日本三奇橋の一つとされています。猿橋は橋脚を使っていない珍しい肘木けた式橋であり、長さ31m、幅5.5mのさして大きくはない木橋ですが、谷が31mと深く、橋脚が立てられないため、両岸から4層にせり出したはね木を設け、それを支点として木のけたをかけ渡しています。創建の時代は不明ですが、安永6年(1777年)の文書の記事では、200年以上も前からすでに現在の形で存在していたとみとめられています。

伝説によれば、奈良時代(推古帝の代、612年)、百濟の造園師芙蓉麻呂(しきまろ)が桂川溪谷の野猿が藤づるを利用して対岸に往来する谷渡りにヒントを得て設計架橋したといわれています。しかし、この工事は苦渋を極め、完成間近になって豪雨の為に水泡に帰したという尾ぐれもついています。落胆した彼はある夜、白猿があらわれ、橋を完成させるには、サル年、サルの日、サルの刻生サルの男女の生き血を捧げよ、と告げる夢を見たのです。そしてその時、その条件に合っていた芙蓉麻呂夫婦は自害し、その血を捧げると橋は見事に完成したといわれます。

又、猿橋にまつわるエピソードとしては、猿橋村に追われる身を隠していた国定忠治が、役人に発見され、この橋より桂川に飛び入り、渦巻く早瀬を上流に向って泳ぎ、阿弥陀寺(殿上)に居た清水の頑鉄、板割の浅太郎と落ち合い、危く難をのがれたといわれます。

四季を通しての景観は絶品であり、古くから観雪斎月磨をはじめ、池田英泉、葛飾北斎、昇亭北寿、北尾政美、安藤広重、歌川国盛など多くの画家に描かれてきました。そしてこの美しさは大月市が、いや日本が世界に誇り得る文化財の一つであると言っても過言ではないでしょう……。



おかげ様で当店も明治21年の創業以来、皆様の
変らぬ御愛顧を賜わり今日に致りました。これもひとえ
にお客様のおかげと感謝しております。猿橋の恩恵を
受けて来た者として、この度の竣工を記念して、さきやかでは
ありますが皆様に記念品を御贈りしたいと存じ、この様な
ものを作りました。

甲斐のおみやげ

甲斐の地酒

ゴールド菊屋 (田辺酒造)
甲斐の銘酒武田二十四将 (笹一酒造)
原酒七賢〈セット類〉 (山梨銘醸)

甲斐ワイン

オリファンワイン (笹一酒造)
マルス ワイン (本坊酒造)

その他、多くの和、洋酒をとり揃えております。おみやげ
御贈答用に御用命下さいますようお願い申し上げます。

大月市猿橋町



金澤商店

TEL. (2) 0520